

ユースケースで見る

「AgileWorks」による ワークフロー課題の解決



豊富な機能とGUIツールで、大企業のペーパーレス化を強力に支援

ユースケースで見る 「AgileWorks」によるワークフロー課題の解決

多くの企業では、更新作業時の負荷やペーパーレス化など、稟議・申請などのワークフローに関する課題を抱えています。こうした課題を解決できるのが、豊富な標準機能と高い汎用性を持つワークフローシステム「AgileWorks」です。日鉄ソリューションズは、3年連続で「AgileWorks Sales of the year」を受賞するなど、AgileWorksの導入・運用に豊富な知見を有しています。本ホワイトペーパーでは、AgileWorksがどのような課題に対応し、どのような効果を出すことができるのか、実際の事例をベースとした架空のユースケースを通してご紹介いたします。

Contents

●ユースケース1：運送業 A社

長年使い続けたグループウェアからの変更で
1年あたり1200万円のコスト削減に

●ユースケース2：自動車製造業 B社

会計システム更新に合わせてワークフローを刷新
組織変更に伴う改修コスト圧縮とペーパーレス化実現

●ユースケース3：製造業 C社

スクラッチ開発の稟議ワークフローを刷新
年間1万時間の短縮と5500万円の効率化を実現

■お問い合わせ

日鉄ソリューションズ株式会社

デジタルテクノロジー&ソリューション事業部 営業部

dts-marketing@jp.nssol.nipponsteel.com

<https://www.marketing.nssol.nipponsteel.com/>

ユースケース1

長年使い続けたグループウェアからの変更で 1年あたり1200万円のコスト削減に

運送業 A社では、以前から使用していたスクリプト言語でプログラム開発が可能なグループウェア製品を使って、勤務申請、休日出勤・残業申請、稟議書、身上書、交通費精算、出張申請・精算など、人事関連の申請ワークフローを構築していました。しかし事業の拡大とともに、国内外の各拠点が独自にワークフロー製品を導入して、申請ワークフローを開発。そのため情報システム部門が把握できない状態でした。また、法改正や組織変更などの改修がSIベンダーに依存していることも課題でした。

企業プロフィール

運送業 A社

- ・従業員数 : 1万2000人
- ・オフィス : (国内) 東日本、首都圏、中部、関西、四国、九州
(海外) 中国、東南アジア

課題

—— 開発担当者が異動すると追加や改修が困難に

運送業 A社の人事申請ワークフローは、開発担当者が異動してしまうと、追加開発、改修が困難、製品本体のバージョンアップが困難など、情報システム部門に関わる課題がありました。特に、使用していたグループウェア製品は、スクリプト言語を使って、各拠点の担当者が自由にワークフローを開発してきたので、新たに導入したノンプログラミング製品で対応できるのかという不安を抱えていました。

こうした課題を解決するために、運送業 A社が選定したのが

課題

- ・各拠点が独自にワークフローシステムを開発・運用
- ・人事異動などによるワークフローの改修をSIベンダーに依存
- ・スマホや最新OSへの対応に伴うバージョンアップが困難



効果

- ・ノンプログラミングで各拠点のニーズに対応し管理権限も分離
- ・SIベンダー依存からの脱却で開発コストを削減
- ・情報システム部門が抱える課題や不安を解消

AgileWorksでした。選定理由は、ノンプログラミングで個別のニーズに対応できる製品でありながら、各拠点の管理者が、そこで開発されたものだけを管理できる権限分離が可能なことでした。AgileWorksの導入は、1次開発と2次開発が各8カ月の16カ月で本番稼働。6カ月後から6カ月かけて3次開発開始を実施。2年4カ月の開発で、費用は2億円でした。

効果

—— 1年あたり1200万円の開発要員コストを削減

AgileWorksを導入したことで、労働基準法などの法改正に伴う既存の勤務申請ワークフローとの連動や、数年に1度行われる組織改正、内部統制の強化、役員の変更などのための稟議書の承認ルール（決裁規定）の改正など、大規模な改修もSIベンダーに依存することなく、自社で対応できるようになりました。SIベンダー依存からの脱却により、月あたり100万円、1年あたり1200万円の開発要員コストを削減できました。

また、モバイル端末への対応や、サーバーOS、クライアントOSのサポート終了に伴って、グループウェア製品のバージョンアップが緊急の課題でしたが、各拠点でさまざまな申請ワークフローを作成し、運用していたために、影響の範囲が判断できずバージョンアップができない状態でした。AgileWorksの導入により、こうした情報システム部門が抱えていた課題や不安も解消されています。



ユースケース2

会計システム更新に合わせてワークフローを刷新 組織変更に伴う改修コスト圧縮とペーパーレス化実現

自動車製造業 B社では、会計システムに搭載されているワークフロー機能を使用して、購入依頼申請、支払申請、見積照査申請、請求申請などの会計ワークフローを構築していました。この会計ワークフローを、AgileWorksへ移行しています。今後は、人事システム、固定資産システム、ID管理システムに搭載されているワークフロー機能で構築された人事ワークフロー、固定資産ワークフロー、ID管理ワークフローも、順次AgileWorksに移行する計画です。

企業プロフィール

自動車製造業 B社

- ・従業員数：1万3000人
- ・オフィス：(国内)東京、中部、関西、九州
(国外)東南アジア

課題

——人材不足でワークフローの変更に約1カ月

自動車製造業 B社では、人事異動や組織変更などに伴うワークフローの変更は、人事関連は人事システム、会計関連は会計システムと、それぞれのシステムのワークフローを変更する必要がありました。また、情報システム部門の人員が限られているために、各システムのワークフローを1つ1つ変更しなくてはならず、すべての対応を完了するためには、約1カ月の期間を要していました。

さらに、社内のペーパーレス化を推進していましたが、各業務システムを全社員で利用するには、ユーザー単価が安いもので

も1ユーザーあたり1000円、高いものでは1ユーザーあたり1万円とライセンス費用が高価なため、全社でペーパーレス化を実現することが困難な状況でした。こうした課題を解消するために、自動車製造業 B社が選定したのがAgileWorksでした。



効果

——年間のワークフロー改修コストを5分の1に

AgileWorksが選定された理由の一つに連携機能の豊富さがあります。本案件では、外部からデータを取り込んでワークフローをスタートし、承認完了時点で、会計、人事、固定資産、ID管理などの複数システムにデータが連携される必要があったためです。また、多くのシステムが関係する組織変更時に予め変更後の回付ルートを設定して確認できること、そしてその操作も容易な製品であることも選定理由でした。

開発期間は12カ月で費用は5000万円。AgileWorksを導入したことで、人事異動や組織変更に関わる年間のワークフロー改修コストを5分の1(3人×1カ月=450万円を3人×6日間=90万円)に削減しています。また既存システムで、全社をペーパーレス化するためには、数億規模のライセンス費用が必要でしたが、AgileWorksのライセンス料(1000万円程度)だけで、会計、人事、固定資産、ID管理のすべてのペーパーレス化が実現できました。

課題

- ・情報システム部の人的リソース不足
- ・業務ごとにワークフローが個別のため運用負荷が高い
- ・高額なライセンス費用により全社展開が困難



効果

- ・1つのワークフローで必要な人的リソースを削減
- ・汎用性の高いシステムで運用負荷を軽減
- ・ペーパーレス化に必要なコストを数十分の1に圧縮

ユースケース3

スクラッチ開発の稟議ワークフローを刷新 年間1万時間の短縮と5500万円の効率化を実現

製造業 C社では、開発フレームワークを使ったスクラッチ開発で、稟議ワークフローを構築していました。スクラッチ開発のため、新しいOSやブラウザへの対応、組織変更、人事異動などの度に改修が必要でした。改修は、すべてSIベンダーに依頼しなくてはならず、コストと工数がかかることが課題でした。さらに、この稟議ワークフローは、長年使ってきたことから仕様がグループ会社に浸透しており、仕様を変更することが困難でした。

企業プロフィール

製造業 C社

- ・従業員数：1万5000人(グループ会社20社)
- ・オフィス：(国内)10拠点
(国外)5拠点

課題

—— 稟議ワークフローの変更に労力がかかる

製造業 C社の設計図面の稟議ワークフローは、海外で設計したものを日本で承認し、問題がなければ、部品の設計、調達の手配を行います。もし承認時に問題があれば、実験部門へ実験を依頼して、実験の結果、設計変更を依頼していました。この承認フローは、国内、海外、設計部門、実験部門、調達先との連携によって最終的に設計が確定、承認されるため、やり取りに時間と労力がかかることが課題になっていました。

また、稟議ワークフローを変更するためには、コストと工数をかけてSIベンダーに依頼することが必要なため、稟議ワークフロー

を改修するためのプログラミングを排除し、SIベンダー依存から脱却することも必要でした。稟議ワークフローを改修する場合には、グループ各社から変更後の仕様について合意をとりやすいか、という点も重要でした。これらの課題を解決するために、AgileWorksが選定されました。

効果

—— 年間1万時間の稟議ワークフローの時間短縮

製造業 C社は、海外にも拠点があるため、英語対応は必須でした。また、設計時にプロジェクトチームが編成されることが多く、チームの新規作成、メンバー変更、改廃などが柔軟にでき、複雑な稟議ワークフローに対応できる機能も必要でした。さらに、既存の紙の依頼書が使えること、図面に押印する機能、部面管理システムとの連携などに対応できることなどが、AgileWorksが選定された理由でした。

開発期間は10カ月、費用は5000万円。AgileWorksを導入したことで、年間1万時間の稟議ワークフローの時間短縮(1図面の承認に20人が関与、1人あたり10分の短縮、1年間の図面数が3000図面)を実現しています。年間1万時間は55人月に相当し、仮に人月単価を100万円と

すると1年で5500万円に相当す

るROIが出た計算になります。

そのほか、設計承認の履歴が追跡しやすくなったことで、問題発生時の原因調査などの対応時間も短縮できました。



課題

- ・時間と労力を要する設計図面の稟議ワークフロー
- ・スクラッチで開発したため改修時のコストが高額
- ・グループ会社間のワークフローに関する仕様統一

効果

- ・設計図面の稟議ワークフローの時間短縮
- ・スクラッチ開発を必要最小限にとどめ改修時コスト圧縮
- ・国内外拠点をまたぐ承認ワークフローでも効率向上